

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前入居されていた方の口癖である「人生のオアシス」というフレーズから発想を展開して、地域での「憩いの場」を目指すという意味を込めて、「共に笑顔で共に元気、人生のオアシス」という理念をつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をフロア内に掲示し、理念に基づいた対応が出来るように心掛けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内の目に留まりやすいところに掲示し、家族様・地域の方々に理念をアピールしている。また、運営推進会議を通して取り組みの紹介・説明をしている。	○ 地域の行事や催し物へ積極的に参加して、地域の人々に今以上に理解して頂けるように努めていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や散歩の時に、施設周辺の人に出会った時には必ず挨拶をするようにしている。	○ 日々の外出や散歩等を増やしていき、日常的なつきあいの機会を持ち近隣との交流を図ってきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型複合施設ハルジオンの一員として自治会活動に参加している。また、小学校の運動会等にも参加し交流を図っている。	○ 今後は、自治会活動により積極的に参加し、地域の一委員として認知されるよう取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>認知症教室の開催や相談援助等を継続して行っている。</p>	○	話し合いの機会を増やし、地域に貢献できる方法について検討して取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>初めての自己評価及び外部評価であるが、その意義を十分理解できるよう周知している。</p>	○	運営者、管理者、職員は、サービスの質の向上のために自己評価及び外部評価の意義を十分理解して全員で改善に取り組むたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>運営推進会議は、自治会長、地域包括支援センター職員、入居者家族代表等で構成されている。</p>	○	継続して2ヶ月に1回の開催を目指し、又、地域の方々にもより多く参加して頂けるよう努めたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>和歌山市の担当課と随時、相談等を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>	○	市町村との関わりは地域密着型サービスに位置づけられていることもあり、もっと積極的に連携を図れるよう取り組みたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>管理者は成年後見制度に関する研修に参加しているが、職員は参加の機会が少なく制度の理解は十分ではない。</p>	○	今後は、研修の機会を作って、施設内でも勉強会を実施して行きたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p> <p>認知症に特化した事業所として、自分たちの日頃のケアなどに常に注意を払い防止に努めている。</p>	○	職員全員に理解が浸透するように勉強会やミーティングを実施して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族に対し契約書・重要事項説明書の内容を説明し、わからないこと等があれば質問して頂けるようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との対話の時間を作り、日常の業務の中でも利用者の意見に耳を傾けられるように努めている。また、運営推進会議への利用者の参加機会を確保し、意見等を外部者へ表せる機会を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一度、「ハルジオン通信」を通して日々の生活状況を伝えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時には声かけをし、不満や苦情がないか確認している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや会議等において、意見や提案を聞く機会を設けている。また、申し送りのノートを作り自由に意見を発信できる状況作りに努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者、職員間でよく話し合い、状況の変化に合わせた対応が出来るよう心掛けている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18. ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入所者とご家族が安心して頂けるように、馴染みの関係作りに配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
19. ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会には積極的に参加している。また、外部研修については職員の意欲を尊重し、極力研修に参加できるように努めている。	○	外部研修についてもより多くの職員が参加できるように取り組みたい。
20. ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や外部研修を通じての交流があり、情報交換・相互訪問等を通じて、サービスの質の向上に努めている。		
21. ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休息のスペースを設けており気分転換が図れるような環境づくりに取り組んでいる。		
22. ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の状況や変化を把握できるように心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に本人及び家族との面談の機会を作り、本人の不安や思いを受けとめられるよう心掛けている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の都合に合わせた方法等により、家族が求めていること等を受けとめられるよう努めている。</p>	
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族がその時に必要としている支援を検討し、他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。</p>	
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、納得してサービスが利用できるよう、ご家族や関係者の方と一緒に何度でも見学していただけるように配慮している。</p>	
<p> </p>			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が入居者を自分の家族であると考えて行動していけるような関係作りに努めている。</p>	<p>○ 本人と喜怒哀楽を共に分かち合えるように努め、共に支えあう関係を築いていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会などの家族との時間を大切にして、利用者に対する意見や要望を伺い、利用者支援のための協力体制を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係がよりよい関係となるように支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人等にも気軽に来ていただけるように配慮し、馴染みの関係が継続されるよう努めている。	○	馴染みの場所との関係も継続できるよう努めたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個々の性格等を把握し、座席等も利用者同士の関係を考慮に入れた支援をしている。	○	今後も利用同士が良好な関係となるよう努力していきたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、いつでも相談に乗れる体制にあることを常時説明している。	○	退去された利用者には地域密着型複合施設のサービスを利用していただき、関係を継続できるよう努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33. ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者一人ひとりの希望や意向等の把握に努めている。		
34. ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者のこれまでの暮らしぶり等を、本人や家族等から聞き取り、入所者の生活歴の把握に努めている。		
35. ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事摂取量や血圧、体温など利用者一人ひとりの状態等を記入し、現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36. ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入所開始時に、本人、家族と話し合っって情報を収集している。日常の生活の中で職員が気付いたことなどを話し合い、情報を共有しながら介護計画を作成している。		
37. ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前に本人や家族の要望を取り入れながら見直しを行うようにしている。状態に変化が生じた場合には、早急な見直しの検討を行っている。	○	その時々本人の状態を介護記録表等に記録し、新たな介護計画を作成できるよう努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p> <p>介護記録表に日々の生活の様子を記入し、申し送りやノートで意見交換し、情報の共有化に努めている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> <p>入居者や家族の希望に応じて外出や通院の支援を行っている。また、家族の状況等に応じて送迎や付き添いを行うなどの柔軟な対応をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p> <p>慰問やボランティア等の受け入れを行なっている。</p>	○	<p>今後は民生委員や警察、消防、学校等との意見交換の機会を設けていきたい。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p> <p>必要に応じて話し合いを行い、意向や必要性に対応出来るよう努力している。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p> <p>運営推進会議等を通じて地域包括支援センターから意見等をいただき関係作りはできている。</p>	○	<p>今後も本人の意向や必要性に応じて、権利擁護等について地域包括支援センターと連携を深めたいと考えている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>関係者間での情報交換を行い、住み替え時のダメージを極力防げるように努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50.	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>利用者一人ひとりの尊厳が守られるように声かけや対応に注意しながら関わっている。個人情報の取り扱いについても注意しながら管理を行っている。</p>	○	施設内勉強会や外部研修により利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>職員が押し付けるようなことはせず、利用者が自己決定できるような対応に努めている。</p>		
52.	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>職員側の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースで、希望にそった支援ができるように努めている。</p>	○	今後も、その人のペースに合わせたサービスが提供できるよう努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>定期的な訪問理美容を取り入れている。また、希望があれば家族の協力を得て本人の望む店に行っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	今後は利用者一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事を楽しんで頂けるように取組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	毎日の暮らしの中で利用者一人ひとりに合った役割や楽しみを見つけられるよう支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	○	家族と相談しながら、買い物等で、利用者にお金を払って頂く等に取り組めるよう努めたい。
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	外食やドライブなど日常的に外出できるように取り組んでいきたい。
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	遠足やドライブ等で季節にあった場所への外出ができるよう取り組んでいきたい。家族に協力をいただき一緒に出かける機会を作りたい。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	○	家族や友人との電話や手紙のやり取りができるよう支援していきたい。
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	○	家族や友人等の馴染みの人たちの関係を継続できるように支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	○	外部研修等を通じ、身体拘束に対する知識や身体拘束をしないケアについて学ぶ機会を設け、職員全員の知識、意識の向上に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> <p>職員は常に利用者を見守り支援し、日中は玄関等は施錠せずに自由に出入りできるように取り組んでいる。</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p> <p>フロアには常に職員が利用者を見守りできるように、職員間での声かけを行なっている。</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p> <p>薬は保管場所を決めて管理している。洗剤や包丁等の保管場所は固定した場所に決めて、危険を防げるよう心がけている。</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p> <p>ヒヤリハット等を記入し、再発防止に取り組んでいる。事故が発生した場合は、事故報告書を作成し、事故の原因、今後の予防策について検討し、家族への説明、報告を行っている。</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> <p>内外研修を通じて、初期対応、応急処置の方法、緊急時マニュアルを作成し対応を行っている。</p>	○	訓練を通じて全職員が対応できるように努めていきたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> <p>地域密着型複合施設ハルジオンでの消防訓練等に参加している。</p>	○	運営推進会議や自治会への参加を通して地域の人々との積極的な交流を図り、避難訓練等を一緒に行っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>入居前に家族にリスクについての説明をしている。利用者本意のケアができるように家族の要望にもできるだけ対応させて頂いている。</p>	○	できるだけ家族の考えや意見を取り入れていけるよう努めたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>連携の取れる医療機関があり、急変時等にはすぐに受け入れてもらえる体制はできている。普段の状況は職員が把握しており、日々の変化をチェックし、異変には早急に対応できるよう努めている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>ファイルに保存している薬の説明書を職員が随時確認し、効能や副作用等を理解し服薬支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>利用者一人ひとりの排便を促すような食物繊維の多い食品を取り入れたり、水分量が不足しない様に努めている。近くのスーパーまで買い物を兼ねて散歩したり、日々のレクリエーション活動にも軽運動を取り入れている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後、利用者一人ひとりに対して口腔ケアの声かけと一部介助を行っている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>食べる量や栄養バランスについては一人ひとりの状態に応じた食事を提供している。食事摂取量、水分摂取量は記録しており、職員が情報を共有できるよう努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	同法人による感染対策委員会へ参加しており、職員全員で予防、対策に努めている。	○	今後も全職員に感染症に対する理解を深めてもらうため、会議や勉強会を実施していく。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	隔日毎の買い物日を設け、買いだめをせずに新鮮な食材を使用し提供している。調理用具等も毎日熱湯消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は玄関は施錠せず、気軽に入って来ることができるようにしている。玄関前にはプランターを置き、誰でも安心して出入りできるよう工夫している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花を飾ったり、大寒時にはゆずを入れて入浴して頂いたりし、季節感を取り入れている。利用者が作成した作品の展示スペースがある。テラスからは日が差し込んでくる共用の空間がある。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、ソファを置いたり、椅子やテレビを置いて思い思いに過ごせるよう工夫している。また、テラスにもスペースがあり、思い思いに過ごせるエリアになっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、本人や家族と相談した上で、馴染みの物を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるように配慮している。</p>	○	<p>何名かの方々に対しては使い慣れたもの、好みのものを持ち込まれていないので、家族に相談して、居心地よく過ごせるように工夫していきたい。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>気になるにおいや空気よどみがある時は換気している。温度調節は利用者に随時声かけを行い、その都度調節している。また、日中は空気清浄機を置き配慮している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下や風呂場、トイレには手擦りを設置し段差の少ない空間となっており、ベッドは個々に合わせた高さを提供し支援している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレや入浴場等にわかりやすいように看板を取り付け混乱や失敗されないように工夫している。</p>	○	<p>利用者一人ひとりの分かる力を最大限に活かして自立に向けた支援をしていきたい。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>テラスに出てレクリエーションを行い運動したり、芝生のお手入れや水やり、洗濯物干し、日光浴を行い利用者・職員共有の楽しみの場として活用している。</p>	○	<p>あまり外出機会のない人も外気にふれられるように空間の活用を考えたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)